

令和4年度第3回広島市立図書館協議会 会議要旨

日時	令和4年12月23日（金） 午後1時30分～午後3時30分		
場所	広島市立中央図書館 3階セミナー室		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	10名
出席者	委員：林委員、庄委員、武川委員、村上委員、大澤委員、矢野委員、前田委員 事務局：田尾生涯学習課長、高田指導第一課長、長谷中央図書館長、 下土井中央図書館副館長、野口中央図書館事業課長、原田こども図書館長		

議 事（会議要旨）

1 開会

2 議事

(1) 広島市子供の読書推進のための取組について

<説明>

資料1に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(前田委員)

資料1の※印にあるように、目標値は過去4年間（平成28年度～令和元年度）の広島県全体の平均値ということで、90.6%、83.8%となっているが、表においてその2つ左にある平成28年度から令和元年度の平均値は、目標値と同じものを指しているのではないのか。

(林委員長)

この取組を策定する際に、それまで目標を実績値より高く設定していたので、県の平均を勘案した達成できる目標に変えようということになったと思う。参考資料1に第三次計画の目標値が載っているが、実績よりも高く設定しすぎており、実現不可能という印象を持つものであった。そこで、広島県全体の平均値を目標として設定し、まずそこに近づけようということになったと記憶している。

資料1にある過去4年間の実績は広島市の実績であり、令和7年度までの達成を掲げている目標値は、広島県全体の平成28年度から令和元年度の平均値であり、それ以上を目指すこととしている。

(事務局)

林委員長に御説明いただいたとおり、資料1の表にある過去4年間の実績は広島市の数値であり、目標値は広島県の数値をもとに設定している。

(村上委員)

まず数値目標について、参考資料2の「1 「1か月に1冊以上読書する子供の割合」について」にある「読んでいない」の割合を100から引いた数値が実績値となると思うが、資料1の進捗状況と合わないように思う。

(事務局)

参考資料2は広島県全体の数値を掲載している。広島県児童生徒学習意識等調査の結果について

では、県全体の数値は公表されているが、市の数値は教育委員会へ通知されるのみであるため、そのようにしている。

(村上委員)

もう1点、資料1の2ページ目「幼稚園・保育園等における家庭での読み聞かせの促進」について、令和2年、令和3年度とも100%となっているが、これは公立・私立全部含めてのことか。

(指導第一課長)

幼稚園については公立19園についてである。保育園は管轄が異なるため把握していない。

(村上委員)

家庭読書アドバイザーとしても活動しており、ここ2年はコロナの影響もあり実際には行っていないが、それまでの活動の感覚としては、私立の幼稚園へ行くと、園ごとに力を入れている所が違い、読書活動にあまり力を入れない園もあった。そのように、数値と体感が少し異なっていたので質問した。

保育園は公立が多いと思うが、広島市立の保育園はどこに行っても本の貸出しをしていたり、取組を行っている感じを受けた。

(事務局)

保育園等についても公立についてである。

(林委員長)

コロナ禍の中で進めることができたことと、できなかったことがあると思う。「基本方針3 地域における子供の読書活動の推進」の重点施策に「ソーシャルメディアを活用した啓発・広報の強化」があるが、進捗状況を見ると年間23回、ほぼ目標の倍の回数行われているが、この取組は令和4年度も定着しそうか。また、こういった取組の状況によっては、広島市の子供の読書活動の推進の重点が変わってくるのか。

そして、第8波という状況が言われる中で、対面でできること、そこを超えてオンラインも含めてできることについて、先が見えていることがあれば教えていただきたい。

(中央図書館長)

「ソーシャルメディアを活用した啓発・広報の強化」の実績増については、図書館としてソーシャルメディアを活用した広報をやっていくということを戦略的に考えたことも要素としてある。新型コロナウイルス感染拡大が収束したとしても、ソーシャルメディアの活用は引き続き行っていきたいと考えている。

子供にとっての読書はとても重要であり、その推進に向けて図書館としては、ソーシャルメディアのみならず、FMちゅーピーのラジオ番組で月1回、図書館の紹介等に取り組んでおり、様々なメディアを活用していきたいと考えている。

(林委員長)

もう少し進めて考えると、この取組の担当課は図書館、生涯学習課だが、「子供」と考えたときに、社会教育の範疇だけでなく、学校教育にも踏み込んで共にできることについて何か見えているものがあれば、指導第一課の方からでも教えていただきたい。担当課で分けて考えるのではなく、「子供」という観点で考えてみたときにどうか。

(指導第一課長)

委員長が仰ったとおり、学校は学校、図書館は図書館と分けて考えている訳ではなく、連携をとっていきよう考えている。ただ、今の時点で、学校としてソーシャルメディアを活用して何ができるかということ具体的に考えている段階ではない。しかし、例えばGIGAスクール構想で子供たちにタブレットが一人一台となり、電子化が進んでいった時に、これまでと違った読書の形態になっていくのではないかということ教育委員会でも想定をしている。それにどう対応していくか少しずつ話を進めているところではあるが、他都市の状況を見ながら、フェイスブックなどのソーシャルメディアを子供たちの学習に活用するということを進めていけたらいいと思っている。

(林委員長)

そういった積極的な言葉を伺いたかった。

(矢野委員)

先ほども話が出た「幼稚園・保育園等における家庭での読み聞かせの促進」について、公立が対象とのことであるが、これは統計が公立だけなのか、それとも働きかけを私立にもしているが、進捗状況を調べているのが公立だけなのか。

(事務局)

取組を行っている担当課に確認し、後日回答する。

(矢野委員)

私立をどう巻き込みながら進めていくのか、家庭、集団保育施設で本と出合う最初の段階だと思うので、ぜひ公立・私立分けず、一緒に取り組んでいく方向を伺いたいと思い質問した。

(庄副委員長)

資料1の2ページ目「本や資料を基に情報を活用する力を育てる指導の充実」について、小学校の方はコロナ前と比べても数値が上回っているが、中学校については数値が低下している。資料2の13ページを見ると、「学校図書館における辞書・辞典・事典等の予算については図書費に含まれている。図書費の活用内訳については、各学校の裁量。」とあり、中学校について数値が下がっている原因が、新型コロナウイルスの影響ではなく、学校の資料整備に関わる推進状況がよくないのか、それともほかに要因があるのか、考えがあれば伺いたい。

(指導第一課長)

その点について細かく要因を分析しているわけではないため、あくまでも印象の話であるが、この取組については授業の中で当然行うべきことであり、その点では総合的な学習の時間が圧倒的に多い。その他には、理科や、国語、例えば、6年生で宮沢賢治の作品を学習する際には、関連図書を示し、一緒に読むことで教科書の宮沢賢治作品を味わうことができると思う。そうした時に、小学校では時間割にゆとりがある。教科担任制が進んでいるとはいえ、クラス担任が受け持つ授業が多く、弾力的に調べ学習に時間を割くことができる。一方で、中学校は教科担任制で、決まったカリキュラムの中ぎりぎりの時間数で行っており、そういった時間が取りにくいのではないかということが考えられる。予算については、図書費を違う用途に使うことはできないため、中身をどうするかは各学校の裁量ということである。指導第一課は小学校の担当であるが、中学校を担当している指導第二課とも授業のことについてよく話はする。総合的な学習の時間一つにし

でも、充実度という点では中学校は少し遅れを取っているかなということがあり、ある程度時間を確保して行わなくてはいけない当該取組について、難しい面があるのではないかと思う。そういったことが要因の1つとしてあるのだと思う。

(庄副委員長)

ここで解決策を見出すのは難しいと思うが、数値を上げるのは難しい。啓発活動を続けていかななくてはいけないのだと思うが、10%以上も下がるというのは非常に心配になる数値である。私事だが、先日、中学校の先生にそういった話をする機会があった。先生方が頑張ろうとしている中、数値として10%も大きく下がるというのは心配であり、経過を見つめていきたいと思う。

(村上委員)

資料2について説明は省略されたが、事前に送付いただいたので目を通した。その中で、12ページに学校司書についての記載があるが、私がボランティアに行っている小学校にも学校司書の方がいる。しかし、2中学校区の受け持ちなので8校担当されており、1か月に2日、多いときで3日しか来られない。ボランティアとも協働してということなので、やってほしいことを教えてもらい協力はさせていただいている。しかし、1か月に1回程度なので、メールも活用し、なるべく連絡を取るようになっているが、なかなか思うように動けていない。一緒に学校図書館ボランティアをしている方や知り合いの学校司書の方からも、せめて半数ぐらいの担当であれば、1か月に1週間程度行けるので、もう少しいろいろなことができるのにという声を聞く。学校司書の数を増やすことは難しいと思うが、先ほどの調べ学習の推進についても、教員の方も頑張っているが、その準備として学校司書が本を揃えたりしているとのことなので、これを増やす方向で考えていただきたいと思う。そういった予定についてはどうか。

(指導第一課長)

予定の有無で言えば、増やしたいとは考えている。そういう思いはあるが、まずは計画的に、現在の仕事内容の整理をしながら進めていかないといけない部分である。司書教諭の役割が確立できていない部分がある中で、学校司書や地域のボランティアの方にも相当頼っている現状がある。単に学校司書だけを増やすのではなく、校長をトップリーダーとして、学校図書館の館長という位置付けを学校の方にしっかりとってもらい、司書教諭が学校のプランを立て、どの部分を誰が分担するのかというところで考えていかないといけないと思っている。委員に御指摘いただいた点については、こちらでも現状として把握はしているところである。

(村上委員)

司書教諭の先生が各学校にはいるが、特に小学校では担任を持っておられ、図書館のために時間をとることが大変そうであるので、その辺りがどうやったら上手くいくのかと思う。学校司書数についても今後も引き続き検討していただきたい。

(武川委員)

先ほど庄委員が指摘された数値については、私もなぜこんなに下がるのか気になった。私は学校教育の分野にいたので、先ほど庄委員御指摘のとおり、調べ学習をしようとする、学習指導要領では3時間のところ、それ以上かかるというのが実際であると思う。そこでデータの取り方について伺うが、例えば、「本や資料をもとにして」という部分だけを見れば、教科書やサブテキストに出てくるデータに沿って考えさせるというのも本の活用になると思うが、これは「図書館の本を使って」ということに限定して取ったデータなのか伺いたい。

(指導第一課長)

質問項目以上のことについて説明はしておらず、委員御指摘のように捉えている学校もあればそうでないところもあるというのが現状だと思う。

(2)「広島市立図書館再整備方針」の策定について

<説明>

資料3に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(前田委員)

前回と前々回を欠席したためスケジュールがよく分かっていないが、この再整備方針は策定されたものを今日紹介されたということか。

(生涯学習課長)

これまでいただいた御意見を踏まえて策定したものを報告させていただいている。

(前田委員)

今日はこの策定された再整備方針について感想を述べるということか。今日の意見がこれから反映されるのではなく、方針を確認するというのがこの議題ということか。

(生涯学習課長)

本日は、これまで皆様からいただいた意見を再整備方針にこのように反映しましたということの報告が中心である。そのため、策定した再整備方針についての御感想や、今後再整備に取り組んでいく上での留意点があれば、御意見をいただきたいと思っている。

(前田委員)

この再整備方針が変わるということはないということか。

(林委員長)

平成23年の「これからの図書館サービスについて」から変わったのが今回の再整備方針である。これが、これから進めていく方向性であり、今後社会情勢が変わっていく中でまた変わっていくものであるが、現時点で留意すべきことがあれば、御意見をいただきたいと思うものだと思う。

(前田委員)

1つ質問させていただく。今回追加で変更された中の、資料3の5ページ、広島に関する資料をもう少し手厚くするといった中で変更点があったと説明されたが、再整備方針冒頭で、浅野文庫の資料については、今回、図書館の中からなくなるという印象を受けた。図書館から浅野文庫の資料はなくなり、別のものになるという認識でよいか。

(生涯学習課長)

浅野文庫については、現在浅野家と今後の保存・活用について協議をしているところであり、その結果に基づいて今後の整備の方針が決まってくる。今回の図書館再整備方針とは別に検討しているところである。

(前田委員)

浅野文庫資料が一緒になるのか、そうでないのかで変わってくる部分があると思うが、今の段階では、新しくできた方針には浅野文庫の資料は入らないことになっていると考えてよいか。

(生涯学習課長)

今回の再整備方針においては、浅野文庫は切り離して検討することとしている。

(村上委員)

前回の会議でお願いしたことをかなり取り入れてもらっているが、1点、こども図書館について、ベル・コレクションは大切であるが、そのほかにも資料収集をされており、子供の本の中核図書館としての役割もある。現在既に書庫が一杯で中央図書館の書庫に預けている現状もあり、こども図書館についても、十分な広さの書庫を加えてほしいとお願いしたが、それは取り入れられていなかった。そこに理由はあるのか。

(生涯学習課長)

こども図書館の再整備については、合築施設であるこども文化科学館のリニューアルに合わせて今後検討していくこととなる。その中でスペースがどれくらい確保できるか、配置によりどれくらい書庫スペースがとれるのかを検討していくため、現段階で増やすことができるかは不明であることから、再整備方針の中には入れていない。

(村上委員)

再整備方針に沿うように図書館を整備してくことになるはずだが、できないかもしれないので入れないというのは本末転倒のように感じる。

(生涯学習課長)

基本的には再整備方針に沿った図書館となるように目指していくものだが、当然、今後進めて行く中で決まる部分もあるため、検討が必要な部分については、再整備方針に入れていない。

(村上委員)

現段階ではこれで再整備方針が策定されたが、今後の状況によって変わっていくことがあるということか。

(生涯学習課長)

先ほど委員長も言われたが、この再整備方針は半永久的に取り組んでいくものということではなく、時代の流れに合わなくなってきた時の見直しや再検討は必要であると考えている。

(村上委員)

こども図書館を整備する時には、もう一度書庫については考えていただくということによいか。

(生涯学習課長)

こども図書館の再整備について、まずは再整備方針掲げた内容の実現を目指していくが、建て替える時期が来た時には、再度検討することになると考える。

(村上委員)

中央図書館の再整備においては再整備方針に沿って整備をしていくと、この次の議題にある比較検討の中でも言われているので、再整備方針に書かれていないと検討してもらえないのかと心配になった。こども図書館の整備の際には、書庫について考慮していただきたいと思う。

(林委員長)

資料3の12ページ「(3) こども図書館」の冒頭部分で、「中央図書館とは切り離してその機能・サービスの整備、充実を図る」とあり、そこで一度考える。そして、再整備の時期のところでは「こども文化科学館のリニューアルに合わせて」と一体型での方向が出ているので、その中で、もう一度、こども図書館そのもののあり方が検討されるのではないかというように感じた。

(3) 中央図書館再整備候補地の比較検討について (案)

<説明>

資料5に沿って生涯学習課長が説明

<質疑等>

(武川委員)

資料によると、エールエールA館の方が経費が少ないとのことだが、不動産取得の57.5億円は権利の買取りだと思うが、買取りであれば、これ以上の賃貸料といった大きな経費支出はないと考えてよいか。

(生涯学習課長)

不動産取得費については、建物にかかるものと土地に関するものが含まれた金額になっている。基本的には買取りで検討しているが、共有部分に係る費用についてはランニングコストの中で見ていくことになると思う。

(大澤委員)

文学資料館の件について、具体的にどこまで話が進んでいて、どの場所に想定されているのか。いろいろなケースが考えられると思うが、中央図書館がエールエールA館に行った場合には、中央公園内に文学資料館が建てられる可能性が出てくるのか。それとも中央公園内に図書館が建て替えということになれば、文学資料館の構想は立ち消えになるのか。文学資料館まで含めるといろいろなシミュレーションが出てきて大変でないかと思うが、貴重な資料をエールエールA館においても保存するのはすごく大事なこと。文学資料室をエールエールA館にも設置されるとのことであるが、それとは別に文学資料館が設置される可能性があるのか。その辺りをもう少し詳しく伺いたい。

(生涯学習課長)

文学資料については、一旦エールエールA館の方へ移し、専用コーナーを設けて今以上の活用・保存を行っていくよう考えている。現在は21人の広島ゆかりの作家の資料等を収集しているが、その資料数が増えていく、または、新たな広島ゆかりの作家を対象とするといった中でエールエールA館内のエリアをさらに拡充していかないといけない状況となった場合に、文学館を含めてどのように拡充していくかを考えていくこととしている。そのため、現時点では文学館をどこに建てるといったことが決まっている訳ではない。

(庄副委員長)

整備期間の中に新図書館の開館予定が示されているが、中央図書館は普通の図書館ではなく、図書館ネットワークの中での中央としての役割がある。図書館として一般の方に向けて開館をしていなくても、図書館ネットワークの中での中央図書館としての役割が相当期間停止することが無いように計画されると思う。しかし、移転を経験したことがあるので、実際には、移転の期間はどうしてもサービスは低下する。一般の方が入れるかどうかではなく、各図書館とのネットワークの中核としての機能を止めて引っ越さなくてはいけないと思うが、その期間についてどのくらい見込んでいるのか。

(生涯学習課長)

その期間については、今後、基本設計・実施設計を行う中で決まってくるものだと思うているが、当然その期間が短くなるように整備していきたいと思う。その点においても、エールエールA館であれば、既存の施設を使いながら移転準備を進めることができ、サービスを休止する期間は相当短くなると考えている。

(庄副委員長)

中央図書館というのは、建物としての図書館であることよりも、ネットワークの中心であることがすごく大切なことだと考えている。サービスの展開をその期間どのように行っていくのか、実際どれくらい止まるのか。入館できるかどうかに関わらず、中央図書館としての役割ができなくなる期間があるのか、何を継続し、何が中断するのかということが知りたいと思う。

エールエールA館に反対しているわけではなく、機能の面からの検討はされていると思うが、資料の中で、中央図書館機能が前面に出てこないことがずっと気になっていた。資料についてここからは変わることはないとのことだが、市立図書館を利用する上で、何が制限されることになるのか、市民の方も知りたいのではないかと思うし、私は一市民として知りたい。もちろん税金が使われることなので財政面も大切だが、受けられるサービスについても知っておきたい。移転期間中の、広島市図書館全体のサービスについても、何らかの形で情報提供していただきたいと思う。

(矢野委員)

2点伺いたい。まず、整備費について、それぞれ、現在地が60年、エールエールA館が約40年と耐用年数が異なっており、エールエールA館の方が費用が抑えられていることは分かったが、20年の違いがある中でどう経費を比較するということを伺いたい。

また、2点目としてサービスについて、市民にどういったサービスを提供するのかという視点で検討されているが、サービスを展開するためには、職員がバックヤードで作業することが必要になる。それにどのくらいスペースがとれるのか資料からは読み取れなかった。見えないところでの作業スペースや書庫が必要であり、図書館の運命としては本が増え、場が必要になると考えられるが、それらが十分確保されるのか。そこについて、どのように考えられているのか伺いたい。

(生涯学習課長)

1点目の耐用年数が異なる中での比較については、基本的には、エールエールA館は今後40年間使えるという調査結果が出ているため、両方共40年という期間で比較し、エールエールA館の方が安価となるということである。

また、サービスの面については、基本的にはどの場所においても再整備方針に沿った図書館となるよう整備していくものであり、当然、図書館職員の方も使いやすいように整備していく。今

後、図書館職員にも話を伺いながら、設計段階において、働きやすい動線や家具の配置など検討していきたいと考えている。

(矢野委員)

40年間使用することを見通しての書庫や作業スペースを今後検討されるということか。

(生涯学習課長)

書庫について、今回の比較の中では、135万冊の本が収蔵できるスペースを設定している。現在の中央図書館の収蔵可能冊数は71万冊であるが、実際には86万冊ぐらいが館内にあるため、本を置けなくなっている。その館内にある約90万冊の図書と、その他の雑誌や新聞などを15万冊分のスペースと見込むと、残りが30万冊分となるが、現在、中央図書館の1年間の純増冊数が7千から1万冊の間で推移しており、近年の新刊発行数が減っている中で、1年に7千冊ずつ増えるとすると、今後40年間で28万冊増えることになるが、135万冊のスペースがあれば保存できると考えている。

(武川委員)

整備場所がどちらになるにせよ、1点お願いしたい。今日は大雪で、中央図書館へ歩いて来るまでに、来館者ではないかもしれないが、両手に杖を持った方が歩いており、傘がさせず、雪だらけになっていた。そのため、例えば雨や雪の日に、身体障害者などの社会的弱者の方々に来館する導線がどうなのかと思う。図書館の再整備においては、そういった方々の導線にも配慮していただきたい。

(生涯学習課長)

身体障害者の方が来やすいという点でいえば、先ほども御説明させていただいたが、今後広島駅前にはペDESTリアンデッキができ、公共交通機関を降りれば雨が降っていても傘をさすことなく、バリアフリーでまっすぐな通路で来館していただけるようになる。障害者の方からもぜひエールエールA館へ図書館をとの要望もあり、使いやすい施設となるのではないかなと思う。

(村上委員)

私はエールエールA館への移転には反対である。興味を持っているため、先日の広島市議会総務委員会も傍聴し、昨日の市長記者会見についても、図書館への言及があるかと思いYouTubeで視聴した。その会見では、市議会でも説明したため本来は十分であるが、一応、図書館協議会及び社会教育委員会でも説明はする。審議会はどうでもいいといったように言われ、少しがっかりした。

先ほど説明いただいた比較検討資料については、総務委員会でも様々な問題点が委員の方から指摘され、議会は夕方5時ごろまでかかった。時間の問題もあるのでそれを繰り返すことはしないが、例えば「3(1)① 「誰もが読書を楽しめる場の提供」について」の施設整備では、「優劣の差は生じない」とあるが、再整備方針と照らし合わせると、そこには「公民館と連携した閲覧・貸出等の充実」や移動図書館車(ともはと号)について、そして、「豊富な蔵書を十分に収蔵できるスペースの確保」とあり、これが本当にエールエールA館と現在地付近の建て替えとで優劣が生じないのか疑問である。そのように、「優劣の差は生じない」と簡単に書かれていても、よく見るとエールエールA館の方に問題があるのではないかと、いうところが沢山見受けられる。

中央図書館の再整備に当たっては付帯決議が出ており、市民や有識者、議会にきちんと説明して、理解をしてもらった上で実行することになっていたと思う。本日説明は受けたが、決定について理解することが私はできない。疑問点があまりにも多すぎる。

(生涯学習課長)

先ほども述べた通り、どこに建てることになっても再整備方針に沿って整備することとなる。また、蔵書数についても、しっかりと蔵書できるように135万冊で設定している。その上での結論としては、再整備方針に基づく図書館の機能をしっかりと発揮するには、より多くの方に来ていただく、利用していただくことで、図書館としての機能がより発揮できると考えている。そうしたことから、本市としては、エールエールA館の方が適当であると判断したものである。

(村上委員)

蔵書のスペースとしては取れるのだと思うが、本を安全に保管する必要がある。新しく設計するものであれば図書館用の書庫の造りができるが、エールエールA館は飲食店街があり、地下には食品フロアがある。そういった点からも、スペースがとれるだけでなく、安全に本が保管できるのかということについて何も説明がされていない。そういった対策について何も明らかにされていない。また、エールエールA館移転での問題点は、建物の強度と安全に資料が保管できるのかということ、そして、荷捌き場、トラックヤードのことだと思う。しかし、その点への解決方法が何も説明されておらず、ただ「優劣の差は生じない」の一言で片づけられていては、理解するのは難しい。

だが市長は、図書館協議会で説明をしようがしまいが、市議会で説明したのだから、本来は比較検討(案)の(案)を取ってもいいが、念のために説明するという言い方をされたので、ここで私が何か言ったところで変わる余地は、私の力ではないのだろうとは思っている。

(生涯学習課長)

決定については、本協議会及び社会教育委員会議を踏まえ、最終的に市が決定することとしている。

(林委員長)

比較検討として出された資料について、問題点があればそれを指摘していく。それを踏まえて、よりよいものが考えられていく。決定ということではなく、建物をどこに置いてどういったものにしていくのか、ということだと思う。私たちはこの協議会で再整備方針に対して意見を述べてきた中で、それに沿った形での新しい中央図書館となってほしい。財政面などの制限がある中で、広島市民、もっと言えば広島広域都市圏の方の使い勝手の良い、広島の図書館として広島を学ぶ、平和を発信する、そういう役割を中央図書館が担いながら進めていく。そして、全国、世界の人たちに誇れるようなものになってほしいと思う。候補地があり、ここしかないという風に決定していくというよりも、ここなら整備方針を活かしてこういうことができるというビジョンや夢を語ってもらえると良いと思う。

(大澤委員)

委員長が言われたとおり、私は外国の図書館も見てきたが、広島には広島らしい図書館が絶対に必要で、原爆資料館もあり、私は中央図書館に全てをインクルードしなくても良いと思うので、広島らしい文学の発信が必要だとも思っている。ぜひ、世界に誇れる広島の文学を発信する場所を確保してほしいと思う。

(庄副委員長)

必ずしも反対ということではないが、エールエールA館には色々な懸案事項があることを一市民として感じている。比較検討では要するに、アクセスが良い、バリアフリーとなる、そういっ

たことが現在地より圧倒的に優位であるということだと思う。一方で、この度は8階ということで、これが地上階であれば駅の利用者の目の前に図書館が展開されるので行ってみようかという気になると思うが、8階であるならば、知っている人でなければよく分からないと思う。そこで提案だが、駅の利用者が図書館に至るまでのアプローチ、ここに図書館があるから行きたいと思ってもらえる、8階まで引き込むアプローチがどのように展開されるのか、そのイメージがあれば、その魅力が伝わるのではと思う。

また、先ほど商業施設として造られた建物を使うことへの懸案がすごくあり、私もその思いはあるが、専門家が設計図をひくのだから大丈夫なのだろうという信頼感を持っていた。しかし、商業施設であれば、今後こちらが思っていたほどの発展がなかった場合、静かになった建物を8階まで上がって使うということになりかねない。商業施設との複合であればそういった懸念もあり、その際に、図書館はそれとは関係なくこちらの入り口からとはならないと思う。40年もある中で、様々な将来像を私たちが思い描くことができる、イメージすることができるようなものが欲しいと思う。40年というのはとても長い。公共施設との複合化ではそういった懸念は生じないが、かなり大きな商業施設との複合化、しかも上層階であるということが、心配を引き起こすのではないかと思う。

(生涯学習課長)

入口や図書館があることを分かりやすくすることは、しっかりと考えていきたい。

3 閉会

(林委員長)

これをもって、本日の会議を閉会とする。